

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.255

2014年8月

ミャンマー・日本法律研究センター設立1周年記念式典等を挙



目次

●ニュース	
ミャンマー・日本法律研究センター設立1周年記念式典等を挙	3
濱口総長が麻生副総理を表敬訪問	4
濱口総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義	4
第45回経営協議会を開催	5
名古屋大学職場説明会を開催	5
平成26年度学術奨励賞授与式を挙	6
全学技術センター設備・機器共用推進室看板掲式を挙	6
●知の未来へ	
神経回路研究—真の視覚再生に向けて	7
小坂田 文隆 (大学院創薬科学研究科講師)	
●知の先端	
少子化を食い止める—より効率的な子育て支援政策の設計—	8
荒渡 良 (大学院経済学研究科准教授)	
●学生の元気	
第68回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会	10
●部局ニュース	
公開シンポジウム「バルテュスとその境界」を開催	11
公開講義「国際誌エディターが教えるアクセプトされる論文の正しい書きかた」	11
を開催	
第1回エネルギーシステムシンポジウムを開催	12
ICCAE 第4回オープンセミナーを開催	12
特別展「人類史上画期的な石器」を開催	13
第15回次世代自動車公開シンポジウムを開催	13
減災連携研究センターシンポジウムを開催	14
イスタンブール工科大学と学術交換及び協力に関する覚書調印式を挙	14
第32回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催	15
博物館に卓上走査型電子顕微鏡 TM-1000が寄贈される	15
大学連携キャンパス講座を開催	15
●名大を表敬訪問された方々	16
●新たに締結した学術交流協定	16
●構成員を対象とした研修	17
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成26年6月16日～7月15日	19
●INFORMATION	
第10回名古屋大学ホームカミングデー	22
「情報化社会における融和からの発展」を10月18日(土)に開催	
概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2014」を刊行	23
●イベントカレンダー	23
●ちょっと名大史	
学徒出陣—戦場へ向かう学生たち—	28

ミャンマー・日本法律研究センター 設立1周年記念式典等を挙





- 1 | 1 キンサンイー教育大臣訪問時の記念撮影
 2 | 2 記念講演会での対談の様子
 (右が総長、左が益川特別教授)
 3 | 3 記念講演会での記念撮影

ミャンマー・日本法律研究センター設立1周年記念式典等が、6月20日(金)、ミャンマー ヤンゴン市内において挙行されました。本学は昨年6月、ヤンゴン大学と学术交流協定を締結し、ミャンマー・日本法律研究センターを開所しました。今回の一連の式典等は、同センターの設立1周年を記念して行われました。同センターはこれまで、日本法に関する基礎知識を身につけるための講義や、ミャンマーで法整備が必要となっている法律分野に関する研究を進めてきました。また、活動は法律分野にとどまらず、ミャンマーの教育制度再編に伴う両国の教育制度の課題に関する知見交流、植物及び微生物の分子生物学への教育研究支援も始めており、ミャンマーとの多岐にわたる教育研究活動を展開してきました。

当日はまず、ヤンゴン大学において、2008年ノーベル物理学賞を受賞した素粒子宇宙起源研究機構長である益川敏英特別教授による記念講演会が開催されました。ヤンゴン大学教員・学生、日本の関係者を含む約200名の参加がありました。本講演会は、日ミャンマー外交関係樹立60周年事業の一環として認定され、来賓として樋口建史在ミャンマー日本国特命全権大使、今泉柔剛文部科学省高等教育局



高等教育企画課大学設置室長のあいさつがありました。「現代の科学と社会」と題した益川特別教授の講演後に行われた濱口総長との対談では、「失敗ありの人生は楽しい」、「ひらめきは、あきらめた瞬間にやってくる」と話す益川特別教授の言葉の真相に迫りました。ヤンゴン大学の学生からは、科学は世界の発展にどう役に立つのか、などの質問がありました。ミャンマーでは、2011年3月の民政移管以後、民主化、自由化に向けた様々な改革が進められ、大学の自治、学問の自由の確立という課題は、まさに現在、教育関連法改正の中で実現されようとしています。講演会の中での、「学習とは、自由を獲得するプロセスである」という益川特別教授の発言は、ミャンマーの新しい時代を切り開いていく若者にとって希望のメッセージとなりました。講演会後には、ヤンゴン市内のパー

クロイヤルホテルにおいて、同センター1周年記念式典が挙行されました。式典の中で、神保法政国際教育協力センター長より、同センターの活動への協力に対する感謝の意が表されました。また、本式典は、名古屋大学全学同窓会ミャンマー支部の1周年記念会合としても位置づけられ、ミャンマー支部長であるナンララウィン ヤンゴン第一医科大学薬理学部長から同窓生を代表してあいさつがありました。

記念式典等の前日には、総長をはじめとする代表団は、首都ネピドーにおいて、キンサンイー教育大臣を訪問し、本学への日頃からの協力に感謝を述べるとともに、アジアサテライトキャンパス学院設置について説明を行いました。キンサンイー教育大臣からは、アジアサテライトキャンパス学院に対して大きな期待が寄せられました。

濱口総長が麻生副総理を表敬訪問

濱口総長は、7月4日(金)、文部科学省において、麻生太郎副総理・財務大臣を表敬訪問しました。今回の訪問は、麻生副総理が外務大臣に就任していた平成19年に外務省から提供を受けた、テレビ会議システムや語学学習支援ソフトに対する感謝の意を表すために行われました。訪問には鮎京理事、小畑法政国際教育協力研究センター長



記念撮影

牧野絵美同センター特任講師及びベトナム・ハノイの日本法教育研究センター卒業生で現在大学院法学研究科に留学中のグエン・ドック・ヴィエットさんとチャン・トゥ・チャンさんが同席しました。

冒頭、総長から麻生副総理へ「副総理の外務大臣時代のご支援のおかげで、このようにベトナム人留学生が立派に成長しました。アジアのハブ NAGOYA をつくるためにさらに前進します」と謝辞が述べられました。次いで、鮎京理事が、本学のアジア展開につき説明し、ベトナムをはじめとするアジア7カ国への日本法教育研究センターにおける人材育成、ベトナムのフエ、ハノイでの内視鏡トレーニングセンターの設立、また、アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム、さらには、ASEAN 研究センター設立に向けての抱負を説明しました。その後、留学生2名から麻生副総理へ、ベトナムの日本法教育研究センター在学学生が書いたイラスト入りの感謝の色紙が贈呈されました。

訪問の中で、麻生副総理は本学のアジア展開に大きな関心を示し、人材育成の重要性に触れるとともに、留学生への激励の言葉もあり、訪問は終始和やかな雰囲気で行われました。

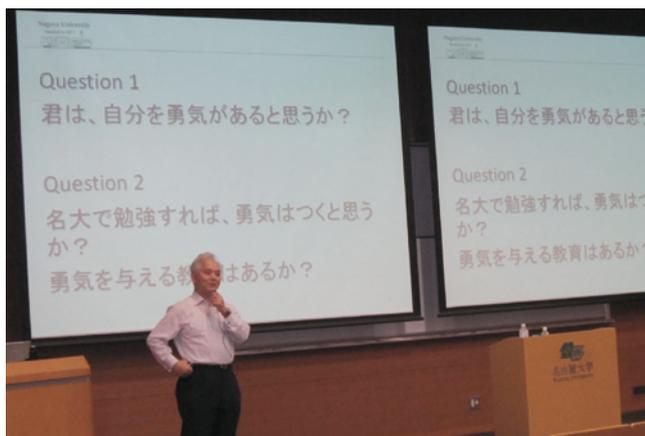
濱口総長が全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義

濱口総長は、6月24日(火)、IB 電子情報館大講義室において、全学教育科目「名大の歴史をたどる」で講義を行いました。この講義は、池内大学文書資料室部門長が開講する、全学教育科目「名大の歴史をたどる」の中で、講義の1回を総長を講師として招き行われるもので、10年以上も続く本講義の恒例行事となっています。今回は、「名古屋

大学の目指す人材育成—ノーベル賞級学者を生んだ学風—と題して、正規受講生を含めて約200名の参加がありました。

講義は総長からの、「君は、自分を勇気があると思うか?」、「名大で勉強すれば、勇気がつくと思うか?」、「勇気を与える教育はあるか?」、「何のための勇気か?」という立て続けの質問から始まりました。その後、21世紀は持続可能性実現の世紀であり、それに必要なイノベーションを起こすのは、日本の工業生産の中核である名古屋からであること、そのために本学は、ノーベル賞級の人材をこれからも継続的に輩出できる教育が必要であり、その要となるのが創造性であると述べました。創造性とは、天才によって担われるように思われがちですが、実はそうした天才や創造性は教育によって育成できるというのが総長の主張です。

総長は、これらの主張を具現化するため、本学が創造性の育成戦略として打ち出した様々な教育プログラムを紹介し、これらを積極的に活用して海外の人々と交流し、地元出身者が多くおとなしいと言われる本学の学生に、「勇気ある知識人」として羽ばたいてもらいたいと強く訴えました。



講義の中で学生に問いかける総長

第45回経営協議会を開催

第45回経営協議会が、6月30日(月)、鶴舞地区の鶴友会館において開催されました。

会議では、濱口総長からのあいさつの後、平成25年度実績報告書、大学機関別認証評価、平成25事業年度決算、平成27年度概算要求及び業務方法書の変更の認可申請について、総長、各担当理事及び副総長から説明が行われ、審議



会議の様子

の結果、了承されました。

次いで、年俸制の導入、平成25年度学部卒業生・大学院修了者等の進路状況、平成26年度学部・大学院入学試験状況、大学院の収容定員の充足率、新教育組織検討委員会の設置、平成25年度法科大学院認証評価の評価結果、バンコク事務所の開所、アジアサテライトキャンパス学院の設立、スーパーグローバル大学創成支援事業、外部資金の受け入れ状況等、東京オフィスの運営、名古屋大学基金の状況、国立大学法人法等の改正及び平成26年度会計監査人の選任について報告が行われました。

外部委員の方々からは、平成25事業年度決算及び平成27年度概算要求について、貴重な意見が寄せられました。

なお、同日には第18回総長選考会議も開催され、次期総長の選考について審議されました。

名古屋大学職場説明会を開催

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の合格者を対象とした名古屋大学職場説明会が、6月19日(木)、豊田講堂において開催されました。

まず、豊田講堂ホールにおいて堀内総務部長からあいさつがあり、その後、大学の概要、事務職員の役割や業務内容、今後の面接等の日程について説明がありました。



業務説明の様子

引き続き、シンポジオンホール、会議室等に会場を移して教務・学生、総務・広報、病院・医療支援、研究協力・社会連携、国際交流、財務・経理、企画・評価、施設管理(電気、機械、建築)、教室系技術(生命科学)の9つのブースに分かれ各所属の担当者による個別業務における内容紹介が入替制で行われました。

さらに、先輩の経験を伝えるコーナー、福利厚生、給与等の処遇説明コーナーが設けられ、参加者からの具体的な質問に職員が個別に対応しました。

当日は、天候にも恵まれ、180名を超える参加があり、その後の作文試験からはじまる選考試験に向けて参加者はそれぞれ真剣に説明を聞き、メモをとっていました。

また、学術情報サービス(図書)、教室系技術(生命科学を除く)については、実際の職場に場所を移して業務説明が行われました。

平成26年度学術奨励賞授与式を挙

平成26年度名古屋大学学術奨励賞授与式が、7月1日(火)、豊田講堂第1会議室において挙

行されました。同賞は、学術憲章に定める、「人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて、人々の幸福に貢献することを、その使命とする」という基本理念に基づき、本学の大学院博士後期課程に在学する特に優秀、かつ、将来の有望な学生



記念撮影

に対して、その教育研究活動を奨励することを目的とした顕彰制度です。今回の受賞者は6名で、表彰状及び副賞として学業奨励金80万円が授与されました。

授与式には、濱口総長をはじめ、理事、副総長、研究科長、指導教員が列席し、総長からは、「みなさんの研究成果は、名古屋大学大学院の人を育てる力の象徴になっている。その誇りを胸に、今後もしっかりと研究を続けていただきたい。いずれそれが日本社会の希望となる」と激励の言葉がありました。

受賞者は以下のとおりです。

【人文社会系】	大学院経済学研究科	潘 麗君さん
	大学院国際開発研究科	真崎 翔さん
【理工系】	大学院理学研究科	林 宏恩さん
	大学院工学研究科	佐々木寛人さん
【生物系】	大学院情報科学研究科	胡 艶楠さん
	大学院理学研究科	井上 摩耶さん

全学技術センター設備・機器共用推進室看板上掲式を挙

全学技術センター設備・機器共用推進室の看板上掲式が、6月17日(火)、超高压高温発生装置室玄関において挙

行されました。上掲式には、國枝理事、全学技術センター長である藤井理事、松村本センター技術部長及び新地研究支援課長が出席し、記念撮影に続き、同装置室内の実験室、サーバ室等

を視察しました。

同推進室は、今年の2月1日付けで全学技術センター技術部に、全学共用の設備及び機器の管理・運用に関する支援を行う組織として設置されました。設備・機器の共用化の推進にあたり、各研究科等からの推薦委員により組織された設備・機器共用推進委員会の協力のもと、学内における共用可能な設備・機器のデータベース化、学内外の研究者等が利用しやすい機器管理予約システムの構築及び研究大学強化促進事業の支援により整備した学内10カ所の設備・機器集積共用施設との連携を目指すこととしています。



記念撮影 (左から國枝理事、藤井理事、松村部長)

神経回路研究—真の視覚再生に向けて

大学院創薬科学研究科講師
小坂田 文隆

そこでそのギャップを埋める回路レベルでの研究が今は重要だと考えています。さらに近年神経科学領域では、光遺伝学、多光子顕微鏡、脳の透明化など革新的な技術が多く開発されました。私も狂犬病ウイルスがシナプスを介してウイルス感染することを利用し、神経回路の構造と機能との対応関係を明らかにできる実験系を作ってきました。これらの技術により、厳密な仮説を立て、精度の高い実験により仮説を検証できるようになってきています。

当研究室では、これらの最新技術を駆使して、視覚を真に理解し、ひいては神経回路の動作原理を解明したいと考えています。そして、細胞や薬物を使って神経回路機能を再生する治療の創生にも貢献したいと考えています。創薬科学研究科は2年前にできた新しい研究科で、我々のラボもまだ立ち上がったばかりです。現在、やる気のある学生やポスドクを募集中です。主に視覚に焦点をあて、いろいろなアプローチから研究しており、興味に応じていろいろな研究テーマの設定が可能です。日本では京都大学や理化学研究所など、海外ではソーク研究所やスタンフォード大学、UCLAなどと連携して、最先端の研究を展開しています。私たちと一緒に研究を楽しみませんか？

私はこれまでに幹細胞を利用して、網膜の再生に取り組んできました。網膜の再生には、網膜色素上皮細胞の再生と視細胞の再生とがあります。私は理化学研究所の高橋政代研究室にて、胚性幹細胞（ES細胞）や人工多能性幹細胞（iPS細胞）から網膜色素上皮細胞や視細胞を作製することに成功しました。現在は、加齢黄斑変性の患者にiPS細胞から作成した網膜色素上皮細胞を移植する臨床試験が始まろうとしています。一方で、視細胞の移植は、網膜色素上皮細胞の移植に比べて非常に難しく、まだまだ多くの基礎研究が必要です。ES細胞やiPS細胞から視細胞や立体網膜組織を誘導できるようにはなりましたが、新しい視細胞が網膜内で神経回路を再構築し、失われた視機能が回復する所までは至っていません。

私は今後視覚の再生治療を実現させるためには、神経回路を理解しなければならないと考えています。視覚の研究は非常に歴史が長く、Hubel博士とWiesel博士が1981年にノーベル賞を受賞されている分野です。ところが、ほとんどが観察から推察された仮説止まりで、厳密に証明されておらず、しかも細胞の数が少ない場合や応答が小さい現象は、無視され簡略化されてきました。分子生物学の発展により分子レベルでの理解は大きく進みましたが、行動レベルでの研究と分子レベルでの研究の間には大きなギャップが存在しま

Differentiation of RPE and Photoreceptors from Human iPS Cells

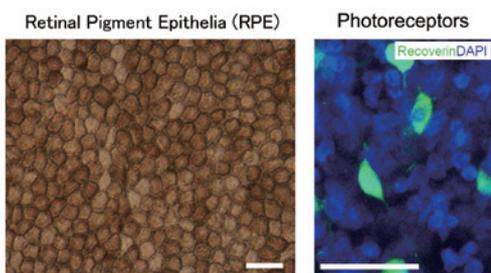


図1 ヒトiPS細胞から網膜色素上皮細胞および視細胞への分化。ヒト繊維芽細胞にOCT3/4, SOX2, KLF4を遺伝子導入し、iPS細胞を作製しました。ヒトiPS細胞を浮遊培養により網膜前駆細胞へ誘導した後に、網膜色素上皮細胞（左）および視細胞（右）を誘導しました。

Two-Photon Imaging of Neural Networks

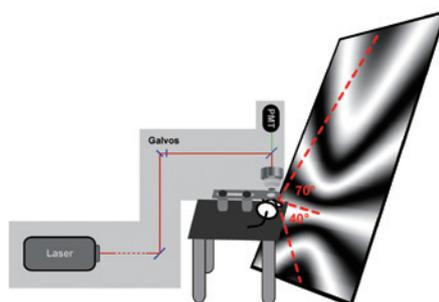


図2 二光子顕微鏡を用いた神経回路解析。二光子顕微鏡を用いると、生きた動物の内部で起きている現象を観察することができます。視覚刺激をモニター上で動物に呈示し、脳での応答を可視化します。

少子化を食い止めるーより効率的な子育て支援政策の設計ー

荒渡 良 大学院経済学研究科准教授

少子化と子育て支援政策

現在、私は少子化対策としての子育て支援政策について研究をしています。子育て支援政策とは児童手当の支給や保育サービスの提供など、子育て世帯の経済的負担を軽減させるような公的サービスの総称です。本来の子育て支援政策は国の将来を担う子供の育成を社会全体で担うことを目的としたものですが、近年では少子化対策としての役割が注目されています。

限られた財源を効率的に使う

これまで多くの研究によって、様々な子育て支援政策が出生率の改善に有効であることが実証的に明らかにされてきました。しかしながら、現在の日本は慢性的な財政赤字を抱えているため、有効と思われる子育て支援政策の全てを大規模に実施することは不可能です。そこで、私は子育て支援政策に投じる予算額を増やすのではなく、予算の使い方を適切に変更することで、より効率的に出生率を向上させる方法を実証的に分析してきました。

研究成果の例：所得補助と非所得補助のどちらを優先させるべきか

研究成果の一例である「所得補助と非所得補助が出生率に与える効果の比較ー市別データを用いた分析ー」（『日本経済研究』、No. 68、pp. 70-87、2013年1月、名城大学の宮本由紀氏との共著）では、子育て支援政策を大雑把に「所得補助」「非所得補助」の二つに分けて、それぞれの効果の大

きさを比較するという分析を行いました。「所得補助」とは児童手当や乳幼児医療補助金に代表されるような、子育て世帯に直接金銭を支給する政策を指します。一方で、「非所得補助」は所得補助以外の子育て支援政策を指し、保育所サービスの提供がその代表です。この研究では、市別のデータを用いて所得補助と非所得補助が出生率に及ぼす影響の大きさを統計的に推計し、その上で、それぞれの市について所得補助と非所得補助のどちらを優先的に増加させるべきかを提示しました。

女性の賃金水準が一つの基準

図1は政令指定都市についての子供一人当たりの非所得補助額と女性の平均賃金の散布図です。また、図中に引かれている直線は推計結果から得られたものであり、直線よりも上側（下側）の領域では非所得補助（所得補助）の方が出生率に与える効果が大きいことを意味します。図1からは次のようなことが分かります。

- (1) 所得補助の方が出生率に与える効果が大きい市もあれば、非所得補助の方が出生率に与える効果が大きい市もある。
- (2) 所得補助と非所得補助のどちらの効果が大きいかは、各市における女性の平均賃金の水準と大きく関係している。つまり、女性の平均賃金が高い程、保育所サービスの拡充などで子育てにかかる時間を減少させることによる便益が大きいため、非所得補助の効果が大きくなる。

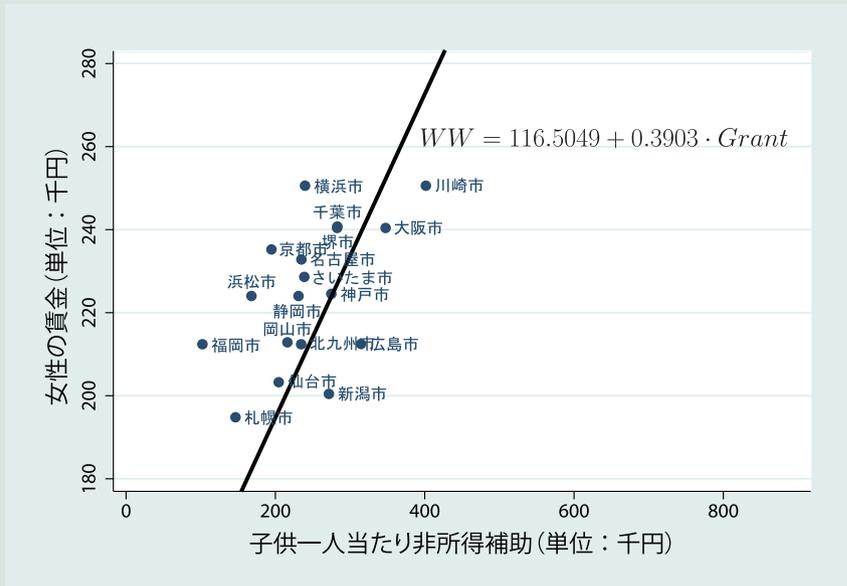


図1 政策効果の比較
政令指定都市における所得補助・非所得補助の政策効果の比較。散布図に記された直線よりも上側の領域では、非所得補助の方が所得補助よりも出生率に与える影響が大きい。

この分析結果より、子育て支援政策は全国一律の政策を実施するよりは、予算をそれぞれの地方自治体に配分し、地域にあった政策を行う方が出生率に対する効果が大きいとすることができます。また、「所得補助」と「非所得補助」のどちらを優先的に増加させるべきかについては、各自治体における女性の平均賃金の水準を目安にするべきであることが分かります。

今後の研究について

上述の研究では子育て支援政策を大雑把に分けた分析を行いました。今後は個別の子育て支援政策を今までよりも効率的に実施する方法について研究を行う予定です。財政的な制約下で、いかにして少子化を食い止めるのか。その方策をこれからも研究していきたいと思っています。

1981年生まれ。2000年摂陵高等学校卒業。2004年同志社大学経済学部卒業。2009年大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。同年信州大学経済学部講師を経て、2011年より現職。趣味は鉄道模型。好きな言葉は「志」。

あらわたり りょう



第68回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会

第68回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会（名阪戦）が、主に5、6月の土・日曜日に大阪大学を当番校として開催されました。今年度は男子32種目、女子14種目を実施種目とし、大阪大学の運動施設などで熱戦が繰り広げられました。

今大会の結果は、今後実施されるゴルフ及びソフトボールの2競技を残して、男子が本学12勝・大阪大学17勝・1分けで大阪大学の勝利、女子が本学7勝・大阪大学5勝で本学の勝利、総合成績では本学19勝・大阪大学22勝・1分けで大阪大学の勝利となりました。

本学は昨年度、平成19年度以来、6年ぶりに総合優勝を果たしましたが、今年度は惜しくも一歩及ばずという結果となりました。

今大会の結果で本学の大会通算成績は、男子が21勝43敗4分け、女子が21勝35敗7分けとなりました（総合成績の制度が導入された第20回から今回までの総合通算成績は、本学の18勝28敗3分けです）。

なお、来年度の名阪戦は、本学が当番校となり開催される予定です。

第68回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会対戦結果表

種目	対戦結果		種目	対戦結果		種目	対戦結果	
	名大	阪大		名大	阪大		名大	阪大
アーチェリー	×	○	漕艇	×	○	アーチェリー	男女合同実施で結果は男子に記載	
アイスホッケー	○	×	ソフトテニス	○	×	弓道	○	×
アメリカンフットボール	引き分け		ソフトボール	9月3日・4日		剣道	○	×
空手道	○	×	体操	×	○	硬式テニス	○	×
弓道	×	○	卓球	×	○	漕艇	×	○
剣道	×	○	バスケットボール	○	×	女子ソフトテニス	○	×
男子航空	○	×	男子バドミントン	×	○	体操	×	○
硬式テニス	○	×	バレエボール	○	×	卓球	×	○
硬式野球	○	×	ハンドボール	×	○	女子バスケットボール	○	×
女子ゴルフ	8月15日		女子フィギュアスケート	×	○	バレエボール	○	×
サッカー	×	○	ライフル射撃	×	○	フィギュアスケート	×	○
自動車競技	○	×	ラグビー	×	○	ラクロス	○	×
柔道	×	○	ラクロス	×	○	陸上競技	×	○
準硬式野球	○	×	陸上競技	×	○	女子成績	7勝	5勝
少林寺拳法	×	○	相撲	○	×	総合成績	19勝	22勝
水泳	×	○	男子成績	12勝	17勝			
スキー	○	×						(引き分け1)



アイスホッケー



アメリカンフットボール



水泳



相撲

公開シンポジウム「バルテュスとその境界」を開催

●大学院文学研究科

大学院文学研究科は、6月29日(日)、文学研究科237講義室において、公開シンポジウム「バルテュスとその境界」を開催しました。同シンポジウムは、同研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターの主催により開催されたもので、東京と京都において開催される展覧会にあわせて、20世紀のフランスを代表する画家であるバルタザール・



シンポジウムの様子

クロソフスキー（バルテュス）を取り上げました。当日は学内外から約150名の参加がありました。

バルテュスの画業は、キュビズム、抽象絵画、シュルレアリスムなどモダン・アートにおける主要な動向のいずれにも回収できず、20世紀美術の展開における位置づけがきわめて困難となっています。一方で、ピエロ・デッラ・フランチェスカをはじめとする過去の巨匠や近現代の画家たちから、貪欲に芸術的養分を吸収していたことも知られています。このような状況を踏まえ、同シンポジウムでは、外部から輪郭や境界を照らし出すことで、これまでにないバルテュス像を立体的に浮かび上がらせることに照準を定めました。

木俣文学研究科長はキリスト教、栗田秀法同研究科教授はブッサン、豊田市美術館学芸員である鈴木俊晴氏はクールベ、愛知県美術館学芸員である副田一穂氏はシュルレアリスム、三重県立美術館学芸員である吉田映子氏はボナール、そして坪井秀人国際日本文化研究センター教授は少女文化といったように各参加者が多様な観点から画家を捉えようとする充実した研究発表が行われた後、約1時間のディスカッションが行われ、バルテュス研究の豊かな可能性が提示されました。

公開講義「国際誌エディターが教えるアクセプトされる論文の正しい書きかた」を開催

●太陽地球環境研究所

太陽地球環境研究所は、6月18日(水)、理学南館大講義堂において、公開講義「国際誌エディターが教えるアクセプトされる論文の正しい書きかた」を開催しました。

この講義は、宇宙空間物理学分野の中心的な国際誌である『Journal of Geophysical Research-Space Physics』のエディターを計11年間にわたって務めた元太陽地球環境研究



講義の様子

所所長である上出洋介名誉教授が、長年の経験を生かし、学部学生、大学院生、若手研究者など、様々な分野で論文の執筆に携わる方を対象に公開講義として実施しました。

講義には、約100名の参加があり、上出名誉教授は、時折ユーモアを交えながら、論文を書くことの意味や論文をめぐる現状、若い研究者が論文出版の際に直面する問題とその解決法などについて説明しました。特に、この10年間、論文の出版数と引用数が中国をはじめとした世界各国で伸びているのに対し、日本の寄与のみが減少していることに強い危機感があること、捏造・改ざん・盗作・コピー・二重投稿などの論文の不正を厳しく認識し正す必要性があることを強調しました。論文不正が社会問題にもなっている現状の中で、論文執筆は研究成果を国民へ還元する最も重要な研究者の義務であり、適切なピアレビューに基づいて優れた論文を発表することで国際的視野から研究への信頼を回復する努力を常に続けなくてはならないという講義でのメッセージは、若手研究者に対する研究倫理教育の一環としても大いに意義あるものとなりました。

第1回エネルギーシステムシンポジウムを開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、7月4日(金)、IB電子情報館大講義室において、第1回エネルギーシステムシンポジウム「持続可能な社会のためのエネルギーシステム」を開催しました。この催しは、同研究所のエネルギーシステム寄附研究部門によって新たに企画されたシンポジウムであり、次世代に必要とされているエネルギーシステムのある



杉本氏による講演の様子

べき姿とは何か、をテーマに、各界の有識者による講演が行われました。

最初に田中エコトピア科学研究所所長より開会のあいさつとして同研究所の紹介が行われました。次いで、舟橋俊久同研究所エネルギーシステム寄附研究部門教授から、今年度から新たに始まった第6期寄附部門の活動方針が発表されました。その後、仁田旦三東京大学名誉教授によるエネルギーシステム持続可能性の現状と課題の提示、杉本重幸中部電力電力技術研究所流通グループ長による再生可能エネルギー発電予測の必要性とその動向、是石純トヨタ自動車技術統括部主幹による低炭素社会実現に向けた豊田市実証プロジェクトに関する報告、浅野浩志電力中央研究所副研究参事による海外の電力市場を例としたアンシラリーサービスやデマンドレスポンスの今後について、そして、関岡昇三湘南工科大学教授からはスマート社会のための雷保護システムについて、各識者による講演が行われました。

参加者は138名に及び、各識者の講演後には学生からの質問を中心に活発な意見交換が行われ、盛況なうちに閉会となりました。

ICCAE 第4回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター (ICCAE) は、7月14日(月)、農学部第7講義棟において2014年度第4回オープンセミナーを開催しました。今回は、JICAプロジェクトのチーフアドバイザーである時田邦浩氏を招き、ウガンダにおける精米業の発展と農業機械化の可能性について講演が行われました。



講演する時田氏

ウガンダでは、都市部を中心とした米の消費量の増加に伴い平均収量は低迷しているものの、栽培面積の拡大によって生産量は増加しています。しかしながら、精米技術の未熟さから国内産には石などの混入も見られ、高い品質を求める消費者は高価な輸入米を選ぶ傾向にあり、輸入米消費量は全消費量の4分の1を占めています。これまで、政府や援助機関は収穫前作業での機械化を促進してきましたが、現状、農業労働者数の不足はほぼないため機械化への需要は少なく、初期投資・維持費ともに高額で、修理技術や部品の供給もままならないという壁にぶつかりました。現在では、収穫後処理技術、特に良質の精米機導入によって品質を向上させることで国内産米の重要を高め、付加価値化を促進することが重要であり、付加価値化は更なる農業技術・収穫後処理技術向上のインセンティブを高め、米産業全体の持続的な発展が期待できると時田氏は強調しました。

ケニア、フィリピン、ベトナム、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィジーからの研修生や留学生を含め学内外から21名の参加があり、セミナーでは、それぞれの国の農業発展を見据えた活発な質疑応答が交わされました。

特別展「人類史上画期的な石器」を開催

●博物館

博物館は、3月4日(火)から7月12日(土)の間、第18回特別展「人類史上画期的な石器—名大のアフリカ考古学者と南山大の旧石器コレクション—」を開催しました。この展示は、約250万年前に人類が作った最古の石器から、数千年前の都市社会で専業体制の下に生産された石器まで、長い人類史上の「画期的な石器」を紹介し、石の道具から



展示の様子

人の進化史と社会の変化を展望しました。現在、私たちが日常で石器を使うことはありませんが、さまざまな環境で長期間保存された石器は、数百万年に及ぶ人類史を物語る貴重な考古資料です。

このような長期間の人類史に関わる研究が、本学によるアフリカ調査の一環として進められてきました。1968年に組織された名古屋大学アフリカ大地溝帯学術調査団によるケニアとタンザニアの地質・考古調査の後、文学部考古学研究室が数十万から数万年前の遺跡調査を行いました。その際に収集された石器資料は、ホモ・サピエンスの文化的起源に関わる標本として、現在、国内外で再評価されています。

共催機関である南山大学人類学博物館とは今年2月に連携協定を結び、大学博物館としての活動の拡充を目指しています。その最初の企画となった同特別展では、本学のアフリカ考古学調査に関連して、南山大学人類学博物館が豊富に収蔵する考古・民族資料の一部を展示し、人類進化史を語る資料を展望できるまたとない機会になったと考えています。また、展示に関連した図書、『ホモ・サピエンスの起源とアフリカの石器時代』を出版しました。

第15回次世代自動車公開シンポジウムを開催

●グリーンモビリティ連携研究センター

グリーンモビリティ連携研究センターは、6月27日(金)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて、第15回次世代自動車公開シンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは、「未来モビリティ実現のための人・車・社会」をテーマに、日本大学生産工学部自動車工学リサーチ・センターと合同で開催し、両大学の関係者



シンポジウムの様子

や一般の参加者など、約100名が参加しました。

当日は、小野木グリーンモビリティ連携研究センター長のあいさつに始まり、第1部では、未来モビリティ実現のための車、第2部では、未来モビリティ実現のための人、第3部では、未来モビリティ実現のための社会について、両大学の関係者による講演が行われました。講演では、自動運転技術を支えるコンピュータサイエンス、自動車技術の現状と将来像が抱える課題、データから読み解くドライバ特性、運転寿命を延ばすモビリティの可能性、ゲームの安全工学への応用、モビリティのシェアリング、といった未来のモビリティ社会実現に向けたバラエティに富む話題提供があり、活発な質疑・討論が行われました。

未来のモビリティ社会を創造・構築するためには、技術だけでなく、人・車・社会といったテーマを包括的に議論する必要があります。同シンポジウムを通して、未来モビリティ実現に向けた研究が進展するとともに、モビリティ技術に関わる研究者や技術者の意識変容が促されることが期待されます。

減災連携研究センターシンポジウムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、6月27日(金)、減災館1階減災ホールにおいて、第3回減災連携研究センターシンポジウム「防災・災害研究者の学術的・社会的役割」を開催しました。

当日は、約80名が出席し、野田利弘同センター副センター長の司会のもと、最初に、福和同センター長からあい



基調講演の様子

さつがあり、引き続き、センターの概要及び今年3月に竣工した減災館の紹介が行われました。その後、和泉正哲東北大学名誉教授による基調講演、「広い意味での災害と防災」が行われました。和泉名誉教授からは、災害への備えとしては、災害をよく知り自らをよく知ること、目先だけでなく先の先まで自ら考えることが重要との説明がありました。

続いて、武村雅之同センター寄附研究部門教授をコーディネーターとして、鷺谷 威同センター教授、金田義行同センター特任教授、新井伸夫同センター特任教授、護 雅史同センター特任教授の4名によるパネルディスカッションが行われました。現在、同センターが取り組んでいるプロジェクトと減災館を通じた人材育成についての紹介の後、同センターの今後の学術的・社会的役割はどのようにあるべきか、会場を交えて様々な立場から活発な議論が行われました。最後に、曾根好徳同センター副センター長から閉会のあいさつがありました。

イスタンブール工科大学と学術交換及び協力に関する覚書調印式を挙

●リーディング大学院推進機構

リーディング大学院推進機構は、6月20日(金)、トルコ共和国 イスタンブール工科大学本部において、イスタンブール工科大学との学術交換及び協力に関する覚書の調印式を挙りました。イスタンブール工科大学はトルコ共和国イスタンブール市に所在し、同国を代表する国立大学であり、1773年創立のオスマン帝国海軍技術学校を起源と



調印式の様子(左が山本理事、右がメフメト総長)

し、世界でも3番目に古い技術系大学です。

今回は、博士課程教育リーディングプログラム「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」におけるカリキュラムの一環として、修士2年次にプログラム学生・関連教員を中心に企画・運営する予定の「サマースクール」をイスタンブール工科大学と共同で開催するにあたって、両大学間で学術交換及び協力を円滑に推進することの必要性があり、本覚書締結をするに至りました。

調印式において、同プログラム責任者である山本理事は両大学の交流促進の教育的意義を強調した上で、今後の協力や連携を要請しました。メフメト・カラカ イスタンブール工科大学総長は、イスタンブール工科大学の歴史や現在の状況を紹介した後、今後の研究交流の発展に対する期待を述べました。これまでにも両大学の教員間では、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の国際プロジェクトや日本学術振興会(JSPS)の組織的な若手派遣プログラムにおいて協力関係を築いてきましたが、本覚書の調印を契機に大学院生や研究員の人材交流、共同研究など多様に発展していくことが期待されます。

第32回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催

●附属図書館



講演する町田教授

附属図書館は、7月8日(火)、中央図書館2階ディスカバリスクエアにおいて、第32回友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催しました。

今回は、町田 健文学研究科教授による、「辞書を読む」と題した講演が行われ、学内外から45名の参加がありました。

講演ではまず、「ことばとは何か」、「意味とは何か」の説明から始まり、「単語」は意味と音の結合であり、また、「単語の意味を知っている」とは、「単語が指し示す事物がわかること」である等について解説がありました。そのうえで、「ネコ」、「運動」、「平和」、「経験」の各単語について、複数の有名な国語辞典、英英辞典、英和辞典及び羅英辞典における記述内容とその特徴が紹介されました。

参加者からは、「普段使っている「言葉」について深く考える機会になった」、「辞書の違いの説明は興味深かった」などの感想が寄せられました。

博物館に卓上走査型電子顕微鏡 TM-1000が寄贈される

●博物館



TM-1000の前で受領書を渡す寺田氏(左)と野崎研究員(右)

博物館は、6月24日(火)、株式会社日立ハイテクノロジー(日立ハイテック)より、卓上走査型電子顕微鏡 TM-1000(TM-1000)を標本として寄贈を受けました。当日は、日立ハイテックから寺田大平 CSR 本部担当部長代理、加藤弘之中部支店管理部長、橋本昭和管理部長が、同館からは、大路館長、野崎ますみ研究員、城島掛長が出席し、寄贈書と受領書の交換が行われました。

今回寄贈を受けた TM-1000は、平成20年から長期貸与を受けており、展示の一部として透過型電子顕微鏡 HU-2型の近くに設置されています。また、TM-1000は、展示だけではなく、実際に学生の教育・研究に用いられ、さらに「ミクロの探検隊®」のイベント時にと活躍しています。TM-1000は、日立ハイテックが平成17年に開発し、世界の学校等に1,000台以上を納めた機械です。当館への貸与も6年間と長きにわたりましたが、寄贈を受けたことで、よりいっそう活動の場を広げていきたいと考えています。

大学連携キャンパス講座を開催

●博物館



講演する足立特任教授

博物館では、6月14日(土)、6月21日(土)、6月28日(土)、7月5日(土)、同講義室において、「達人と話そうーおもしろ博物学ー」を開催しました。これは、名古屋市生涯学習センターとの連携事業、「キャンパス講座」の一環として行われ、名古屋産業技術研究所(名産研)と同館友の会の共催を得て、今年で5年目を迎えます。今年の講演は、藤原慎一博物館助教、名産研上席研究員である石田幸男国際教育交流本部特任教授、西堀賢司大同大学特任教授、足立 守 PhD 登龍門推進室特任教授の4名によりリレー方式で行われました。

今年度は延べ約300名の参加がありました。難しい内容ではありましたが、講師の努力と積極的な参加者によって、充実した企画になりました。参加者からは「動かすことの出来るものやたくさんの標本に触れることが出来て良かった。ちょっと難しすぎた内容もあったがだいたい理解できた」などの感想がありました。

名大を表敬訪問された方々 [平成26年4月16日～7月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
4月17日	韓国	韓国国際交流財団から黄五錫東京事務所長及び駐名古屋韓国総領事館から金仁煥副総領事他1名	表敬あいさつ及び韓国人留学生の支援に係る意見交換
4月23日	中国	華中科技大学自動化学院から曹治国院長他4名	学術交流に係る意見交換
5月8日	タイ	カセサート大学からセークソム・アータマングーン農学部長他3名	表敬あいさつ
5月12日	イスラエル	イスラエル工科大学からダニエル・シェヒトマン特別教授	工学研究科での特別講演
5月15日	インドネシア	ガジャマダ大学生物学部からスワルノ・ハディスサント学部長他1名	表敬あいさつ及び学術交流に係る意見交換
6月4日	タイ	チュラロンコン大学コミュニケーションアート学部からドゥアンカモン・チャートプラサート学部長他5名	表敬あいさつ及び学術交流に係る意見交換
6月10日～13日	ミャンマー	ヤンゴン大学からアウン・トゥ学長他学部長等3名	表敬あいさつ及び学術交流に係る意見交換
6月16日	モンゴル	モンゴル国立教育大学からダバスレン・ムンクジャルガル学長他2名	表敬あいさつ及び学術交流に係る意見交換
6月17日	英国	リーズ大学からルパート・ヘリングトン ファウンデーション・イヤー・プログラム学術英語部門長兼語学センター マーケティング・コーディネーター	学生交換に係る意見交換
6月24日	南アフリカ	駐日南アフリカ共和国大使館からピンディウィ・ディンギレ参事官(農業・林業・漁業担当)	表敬あいさつ及び南アフリカ共和国との学術交流に係る意見交換
7月1日	中国	駐名古屋中国大使館から葛廣彪総領事及び呉卓文化教育担当領事	表敬あいさつ及び施設見学
7月1日	モンゴル	モンゴル国立大学からジャブザン・バトフー副学長及びモンゴル科学アカデミーからシンバト・サンチル植物研究顧問	表敬あいさつ
7月4日	マレーシア	マレーシア元留日学生協会(JAGAM)からチュー・シン・ライ北部支部長	表敬あいさつ及び関係部署との意見交換
7月7日	モンゴル	新モンゴル高校からジャンチブ・ガルバドラルハ理事長	表敬あいさつ

新たに締結した学術交流協定 [平成26年4月16日～7月15日]

大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
4月22日	英国	リーズ大学
6月9日	イタリア	ローマ・サピエンツァ大学

部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
4月17日	韓国	韓国海洋科学技術院 韓国海洋衛星センター	地球水循環研究センター
6月20日	トルコ	イスタンブール工科大学	リーディング大学院推進機構

構成員を対象とした研修 [平成26年4月16日～7月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
4月24日(木)	平成26年度CREST・さきがけ、先端計測分析・機器開発事業、先端的低炭素化技術開発(ALCA)、A-STEP公募制度説明会	科学技術振興機構(JST)が例年実施するCREST・さきがけ、先端計測分析・機器開発事業、先端的低炭素化技術開発(ALCA)、A-STEPについて、研究者への周知を行う。	37名
5月2日(金)	平成27年度採用分独立行政法人日本学術振興会特別研究員公募説明会	研究者を目指す博士課程前期・後期課程在籍者及び博士課程後期課程修了者学生への支援のため、特別研究員制度を説明する。	160名
5月7日(水)	CREST・さきがけ採択経験者等による学内向け説明会	科学技術振興機構(JST)が例年実施するCREST・さきがけ等の公募において、本学でこれまで採択された経験のある教員等による学内向けの説明を行う。	20名
5月9日(金)	ハラスメント防止研修会及び新任教員説明会	工学研究科の新任教員を対象に、教育体制及び教育研究支援体制等の基礎的な知識の取得を目的に実施する。併せて、ハラスメント防止についての研修を行う。	15名
5月9日(金)、15日(木)、6月4日(水)、7月2日(水)、4日(金)、7日(月)、11日(金)	ハラスメント防止研修	構成員のハラスメント防止意識を高めるため。	226名
5月12日(月)	第80回特許基礎セミナー	特許制度の基礎や特許出願書類作成の流れを学ぶとともに、特許文献調査の実習を行うことで、教職員・研究者に必須の特許知識の向上を図る。	10名
5月15日(木)	看護師向け保険診療に係る説明会	保険診療(診療報酬請求)に係る遵守すべき基本的なルールについての周知を目的に実施。	39名
5月21日(水)、22(木)	平成26年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修	東海地区国立大学法人等機関での勤務経験が半年以上2年未満の者に対し、法人職員の心構え等を改めて習得させるとともに、共通して必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成。	148名
6月2日(月)～6月5日(木)	平成26年度前期医療安全・感染対策・医薬品安全研修	医療法により病院管理者に定期開催が義務付けられている、病院従業者に対する研修であり、個々の職員の安全や感染対策に対する業務遂行上の技能やチームの一員としての意識向上を図る。	約2,500名
6月11日(水)	平成26年度個人情報と情報セキュリティ研修「個人情報の利活用と保護に関する研修」	全教職員を対象に、医療機関で取り扱う個人情報の管理について理解を深め、個人情報保護に対する意識の徹底を図る。	307名
6月16日(月)	平成26年度名古屋大学主任研修	名古屋大学職員の主任として職場における役割を自覚し、掛長への準備段階として身につけておくべき態度や意識、リーダーシップ発揮に必要な諸能力を養う。	32名
6月17日(火)	第81回特許基礎セミナー	特許制度の基礎や特許出願書類作成の流れを学ぶとともに、特許文献調査の実習を行うことで、教職員・研究者に必須の特許知識の向上を図る。	11名
6月25日(水)	平成26年度名古屋大学パートタイム勤務職員等研修	パートタイム勤務職員(契約職員を含む)に対し、大学職員としての心構えを自覚させるとともに、業務遂行上必要な基礎知識、能力、態度等を養成する。	79名
6月25日(水)	平成26年度科学技術振興機構 先端計測分析技術・機器開発プログラム、研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)、ナノテクノロジープラットフォーム、SIP(革新的燃焼技術・エネルギーキャリア)公募説明会	科学技術振興機構(JST)が例年実施する先端計測分析技術・機器開発プログラム、研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)、ナノテクノロジープラットフォーム、SIP(革新的燃焼技術・エネルギーキャリア)について、研究者への周知を行う。	23名
6月25日(水)、26日(木)	平成26年度図書系職員初任者研修	附属図書館に新たに採用された職員、および異動により転入した職員に対し、図書館業務遂行に必要な基礎的な知識と技術を習得させることを目的とする。	22名
6月26日(木)	第1回TOEIC IPテスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、自己の実力を知り、自身の自己啓発の動機づけに繋げる。	43名
6月26日(木)	第1回医療技術部放射線部門マネジメント研修	放射線部門のスタッフが、本院の理念の下、組織の一員としての自覚と責任感を持ち、社会に貢献していくために必要な人間力を身につけることを目的とする。	51名

構成員を対象とした研修 [平成26年4月16日～7月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
6月27日(金)	国際交流業務に関する教職員研修 (第1回) 「学生の海外派遣と人材育成」	専門的な知識や能力をもち、大学の更なる国際化を推進できる教職員の育成を目指す。	約40名
7月3日(木)	第3回 URA 研修「欧米の大学における新たな研究マネジメント専門職」	早稲田大学研究戦略センターの丸山浩平氏を講師にお招きし、海外のURAの現状について紹介する。	20名
7月7日(月)	国際交流業務に関する教職員研修 (第2回) 「国際教育交流の基礎(初心者向け)」	専門的な知識や能力をもち、大学の更なる国際化を推進できる教職員の育成を目指す。	33名
7月10日(木)	総務省「I-Challenge! (ICTイノベーション創出チャレンジプログラム)」及び「異能vation(独創的な人向け特別枠)」公募等説明会	総務省が実施するI-Challenge! (ICTイノベーション創出チャレンジプログラム)、異能vation(独創的な人向け特別枠)について、事業概要を説明する。	52名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
1 株式会社日経 HR が行った調査の「企業の人事担当者が選ぶ大学ランキング」で本学が総合ランキングで10位、専門性・仕事力の部門で4位に入った	6.16 (月)	日経 (朝刊)
2 教えて、センセイ！：中部に多い古い家 要注意 飛田 潤災害対策室教授	6.16 (月)	中日 (朝刊)
3 法科大学院合同説明会開催：15日 個別相談・説明会に本学も参加	6.16 (月)	中日 (朝刊)
4 現代日本誤百科 (999)：「若い研究者の芽を枯らせる」町田 健文学研究科教授	6.16 (月)	中日 (朝刊)
5 現代日本誤百科 (1000)：「意識が戻られています」(完) 町田 健文学研究科教授	6.17 (火)	中日 (朝刊)
6 本学の公開講座「おもしろいことは境界で起こる」受講生募集	6.17 (火)	中日 (朝刊)
7 本学を含む全国45すべての国立大学附属病院で製薬会社などからの資金提供について公開すると国立大学附属病院長会議が発表	6.17 (火)	朝日 (朝刊) 読売
8 第32回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の東海地区予選会に本学が参加	6.17 (火)	読売
9 追悼抄：豊橋技術科学大学初代学長榊 米一郎本学名誉教授	6.17 (火)	読売
10 紙つぶて：天と地のブラックホール？ 杉山 直理学研究科教授	6.17 (火)	中日 (夕刊)
11 愛知県「女子中高生の理系！きっかけシンポジウム」開催：8月19日「理系の世界って、すっごく楽しい」上川内あづさ理学研究科教授が講演	6.17 (火)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 中日 (朝刊)
12 防災の知恵：名大「減災館」廣井 悠減災連携研究センター准教授は「普段の生活で防災をあまり意識していない人にこそ、ぜひ来てほしい」と語る	6.18 (水)	読売
13 時のおもりの科学と憲法 深く考察 池内 了本学名誉教授	6.18 (水)	中日 (朝刊)
14 この人：H2A ロケットの打ち上げ責任者 三菱重工業株式会社二村幸基氏本学で電子工学を学ぶ	6.19 (木)	中日 (朝刊)
15 本学はタイムズハイヤーエデュケーションが発表した「アジア地域の大学100校ランキング」で29位に入った	6.19 (木)	中日 (夕刊)
16 天職ですか：バイオベンチャー起業家 株式会社ヘルスケアシステムズ滝本陽介氏 本学の大豆の機能性を評価する技術を使い「エクノール」を作る能力があるかどうか判別できるキットを開発	6.20 (金)	中日 (朝刊)
17 「ひととく 現代日本誤百科」連載を終えて 町田 健文学研究科教授	6.20 (金)	中日 (夕刊)
18 今さら聞けない 博士：大学が与える研究者の称号 2010年度に博士号を授与した大学と人数で本学は7位475人と取り上げられる	6.21 (土)	朝日 (朝刊)
19 七原優介さん教育学部4年生が大学野球日本代表選考合宿で行われた紅白戦に登板	6.21 (土)	中日スポーツ
20 大学@地域 教育2014④：インフラ老化に備え 本学の研修施設「N2U-BRIDGE (ニュー・ブリッジ)」について中村 光工学研究科教授は「実物を使った施設はここだけ。大学が担うことで一般に広く公開できる」と語る	6.23 (月)	朝日 (朝刊)
21 高校生 News：ESD 盛り上げようよ 吉野裕斗さん教育学部附属高等学校2年生が代表を務める「ESD YOUTH INITIATIVE (ユース・イニシアチブ)」が本学で開いた ESD 関連イベントの様子	6.24 (火)	中日 (朝刊)
22 七原優介さん教育学部4年生が今秋のドラフトでソフトバンクホークスからリストアップされていると報じられる	6.24 (火)	中日スポーツ
23 医人伝：江南厚生病院第一整形外科部長・関節外科部長川崎雅史氏 本学で臨床と研究に没頭	6.24 (火)	中日 (朝刊)
24 紙つぶて：研究する幸せ 杉山 直理学研究科教授	6.24 (火)	中日 (夕刊)
25 数理ウェブ開催：28日 椋野純一元数理学研究科特任助教が「双曲平面の3次元ユークリッド空間へのはめ込みについて」と題して講演	6.25 (水)	中日 (朝刊)
26 私の先生：宇宙を探求 社会に直言 愛知教育大学前学長松田正久氏本学卒業生の小川修三本学名誉教授との思い出	6.25 (水)	中日 (朝刊)
27 文化：新国立競技場 建て替えより改修 池内 了本学名誉教授が賛同	6.25 (水)	中日 (夕刊)
28 読売テクノ・フォーラム第20回ゴールド・メダル賞受賞記念大阪講演会開催：25日 東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授が受賞理由の研究成果を「優れた品種改良につなげたい」と語る	6.26 (木)	読売
29 瀧口総長は本学の外部資金が計331億4千万円になったことについて「競争する体力がついた」と評価した	6.27 (金)	中日 (朝刊)
30 男女共同参画社会の実現を目指して 名古屋大学	6.27 (金)	中日 (朝刊)
31 名古屋大学英文学会サマー・セミナー「カウンセリングの文学ー村上春樹から英文学まで」開催：7月11日	6.27 (金)	毎日 (朝刊)
32 のよりサロン：「科学の価値の変遷」いい知恵を出し合う 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	6.28 (土)	中日 (朝刊)
33 薪びと列伝：山里の自立 目指して 高野雅夫環境学研究科教授が「山里にある資源を利用して、集落単位でエネルギー自給ができれば、地域の自立や住民主体の地域づくりは可能です」と語る	6.28 (土)	読売
34 教育2014 大学を経営せよ！④：学長トップセールス 瀧口総長の「世界の名大」をめざす改革、アジア戦略について取り上げられる	6.29 (日)	朝日 (朝刊)
35 朝日カルチャーセンター名古屋 新講座：「西洋中世美術」木俣元一文学研究科教授、「般若心経の成立と歴史」谷口富士夫本学非常勤講師、「はじめてのラテン語」玉垣あゆ本学非常勤講師	6.30 (月)	朝日 (朝刊)
36 豊田喜一郎生誕120周年特別展「喜一郎の夢」開催：28日～9月15日 豊田章一郎全学同窓会会長が「日本が伸びていく基本はものづくりという(喜一郎の) 精神を受け継いで頑張っていきたい」と語る	6.30 (月)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
37 次代への種まき：目立つ産学連携 中部の大学の産学連携拠点として、ナショナルコンポジットセンター、シンクロトロン光研究センター、グリーンモビリティ連携研究センター、減災連携研究センターが取り上げられる	6.30 (月)	日経 (夕刊)
38 凄腕つとめにん：売り上げた麺の長さ 地球の8.34周分 テーブルマーク株式会社商品開発部麺チーム高橋良輔氏本学卒業生	6.30 (月)	朝日 (夕刊)
39 名古屋大学 Open Campus2014開催：8月6～8日	7. 2 (水)	読売
40 文部科学省の調査で来春の本学の法科大学院の入学定員は70名と取り上げられる	7. 2 (水)	中日 (夕刊)
41 憂楽帳：緊迫の会議 ドキュメンタリー「東電テレビ会議 49時間の記録」上映会が本学で開かれた	7. 2 (水)	毎日 (夕刊)
42 平野 恒生物機能開発利用研究センター特任助教らのグループは強靱・高バイオマス遺伝子を利用した新しいイネの品種改良に成功	7. 3 (木)	中日 (朝刊)
43 教育2014：米国発「TED」名大の学生企画 6日開催 実行委員会代表荒木友治さん工学部生は「東京や大阪に負けないイベントを企画している姿を発信したい」と語る	7. 3 (木)	朝日 (朝刊)
44 岸 義人本学特別教授ゆかりの美濃加茂市が「岸義人賞」を創設	7. 3 (木)	中日 (朝刊)
45 阿部文雄太陽地球環境研究所准教授などのグループは3千光年離れた連星傾中に地球に似た惑星を発見	7. 4 (金)	中日 (朝刊) 他2社
46 人間発見 囲碁ジャパンに夢託す⑤：棋士・ナショナルチーム監督山城 宏氏が日本ガイシ株式会社元代表取締役会長柴田昌治氏本学卒業生の指導対局をしていたことや本学を始め大学の授業で囲碁の授業が導入されはじめてしたことについて語る	7. 4 (金)	日経 (夕刊)
47 第9回ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞：八木亜樹子さん理学研究科博士課程2年生	7. 4 (金) 7. 9 (水)	中日 (朝刊) 読売 日刊工業
48 薪びと列伝：「健診」10回 森を知る エネルギーの地産池消で山里の自立を模索していた高野雅夫環境学研究科教授も学生とともに森の健康診断に参加	7. 5 (土)	読売
49 古崎貴大さん本学大学院生は名古屋市地下鉄東山線の終電が延長されたことについて「午後9時からの飲み会だったが、延長のおかげで2件目にも行けた。ゆっくり飲めるのはいい」と語る	7. 5 (土)	読売
50 豊田講堂第1会議室で総務省は補助金で支援する新事業「アイ・チャレンジ」の説明会を10日に開催	7. 5 (土)	中日 (朝刊)
51 この人：学術論文の書き方を著した上出洋介本学名誉教授	7. 5 (土)	中日 (朝刊)
52 渡邊誠一郎環境学研究科教授が科学調査の責任者を務める「はやぶさ」2号機が今冬に打ち上げられることについて「新しい発見に出合うのが楽しみ」と語る	7. 6 (日)	中日 (朝刊)
53 病院の実力：関節リウマチ 医学部附属病院の実績が紹介される	7. 6 (日)	読売
54 中部大学開学50周年記念連続講演会開催：19日 福和伸夫減災連携研究センター教授が講演	7. 6 (日)	中日 (朝刊)
55 石黒勝己エコトピア科学研究所技術補佐員などのグループは、物質を透過する力が非常に強い宇宙線「ミュオン」を使って古墳の内部を探る全国初の試みを奈良県内にある古墳で開始	7. 7 (月)	毎日 (夕刊)
56 第104回日本学士院賞受賞式：7日 日本学士院賞 恩賜賞 赤崎 勇本学特別教授、日本学士院賞 近藤孝男理学研究科特任教授、岡本佳男工学研究科特別招へい教授	7. 7 (月) 7. 8 (火)	朝日 (夕刊) 朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
57 本学も参加する全国国公立・有名私大 相談会2014が19日に行われる	7. 8 (火)	朝日 (朝刊)
58 男女が生きる④：女性のリーダー なぜ少ない 森 郁恵理学研究科教授は STAP 細胞発表直後「理系女子の活躍を取材したい」との依頼を受け、同じく取材を受けた佐々木成江同准教授は「こうやって、女性が社会進出できない理由が子育て問題に落とし込まれる。幹部に女性が少ないことが根本問題なのに、そこに目が向かない」と語る	7. 9 (水)	朝日 (朝刊)
59 宮田令子学術研究・産学官連携推進本部特任教授が内閣府「革新的研究開発推進プログラム」のマネージャーに選ばれた	7.10 (木)	朝日 (朝刊)
60 第6回セントレア盆踊り開催：19、20日 本学の留学生が参加予定	7.10 (木)	読売
61 大学の实力調査 西日本編① 本学の学生数、専任教員数、退学率などが取り上げられる	7.10 (木)	読売
62 第96回全国高校野球選手権 愛知大会：12日 教育学部附属高等学校対愛知県立小坂井高等学校	7.10 (木) 7.11 (金)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
63 教育2014：西村 真国際開発研究科特任教授は本学とシンガポール国立大学の学生が参加するブラザー工業株式会社のプリンターの売り出し方法を考えるプログラムについて「海外の学生にはものづくりの本場を見てもらい、日本人学生は彼らから刺激を受ける」と語る	7.11 (金)	朝日 (朝刊)
64 本学は2014年度の入試要項を発表	7.12 (土)	中日 (朝刊)
65 本学が株式会社ゼットエムピー、アイサンテクノロジー株式会社と連携し研究している自動運転車について今秋に走行試験が行われると取り上げられる	7.12 (土)	読売
66 医学部附属病院などで研修中に故郷が占領された2人のイラク人医師が心境を述べる	7.12 (土)	朝日 (朝刊)
67 本学など9大学が加盟し設立した「大学学習資源コンソーシアム」の取り組みが紹介される	7.12 (土)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
68 イビラギモフ・ブニヨドさん本学留学生は一宮市役所を訪れたウズベキスタン大使館のハサノフ・アスカラリ2等書記官の通訳を務めた	7.12 (土)	毎日 (朝刊)
69 名古屋経営短期大学講師武小燕氏本学卒業生の平塚賞授賞式が本学にて行われる	7.12 (土)	中日 (朝刊)
70 本学の3D プリンターの医療分野での応用例として「手術法確認のための模擬血管の作製」が取り上げられる	7.13 (日)	読売
71 第96回全国高校野球選手権 愛知大会：12日 教育学部附属高等学校は小坂井高等学校に3-11で敗れる	7.13 (日)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
72 備える3.11から 平井 敬環境学研究科助教が地震の周期による揺れの違いについて解説	7.14 (月)	中日 (朝刊)
73 旬の人時の人：「働く壁なくそう」障害者の就労を支援 株式会社 LITALICO 社長長谷川敦弥氏本学卒業生	7.14 (月)	日経 (朝刊)
74 野依良治本学特別教授がノーベル賞を受賞した分野である不斉触媒の研究で京都大学は金属を含まない新触媒の開発に成功	7.14 (月)	中日 (朝刊)
75 入学時、TOEFL ITPなどで実力判別 名古屋大学 英語教育改革で新カリキュラム	7.14 (月)	日本教育新聞

第10回名古屋大学ホームカミングデイ

「情報化社会における融和からの発展」を10月18日(土)に開催

名古屋大学ホームカミングデイは、卒業生・修了生や元教職員が集い、また、在校生のご家族の方々、地域の皆様に、本学の教育・研究活動の一端に触れていただき、本学の理念等を理解していただく重要な行事として位置づけられ、毎年10月の第3土曜日に開催されています。

なお、今年度のホームカミングデイのメインテーマを「情報化社会における融和からの発展」としました。これは、現代の情報化社会では、利便性と引き換えに様々な課題も生じており、その解決に向けた方策、及び急速に多様化する社会への対応に融和し、さらに発展できる方策等について考えていきます。

皆様に有意義で楽しい一日をお過ごしいただけるよう、全力を挙げて準備を進めていますので、ご家族、ご友人もお誘い合わせの上、是非、第10回ホームカミングデイにお越しくださいますようお願い申し上げます。



イベント一覧

【名古屋大学の集い（豊田講堂ホール）】

- ・国際交流貢献顕彰授与式、世界に羽ばたく名大生
- ・名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート

【学術講演（シンポジオン）】

「iRules」:

ネット社会に対応した良識ある家族を育てるために

【講演・体験企画】

- ・災害を知って備えよう（減災館）
- ・あかりんご隊科学実験「色が変わるフシギ☆」（野依記念学術交流館）
- ・「太陽から地球まで」の講演・展示会（シンポジオン）

【市民公開講座】

- ・「認知症と戦う」（野依記念学術交流館）
- ・「窓口での医療費支払いを安くするためには」（ES 総合館）

【展示等】

- ・オープンライブラリー、時を超える贈り物 展示（中央図書館）

- ・第19回特別展「絹谷幸太・創知彫刻」作品解説、野外観察園公開、ミクロの探検隊、ハンズオン・ギャラリー（博物館）
- ・名古屋大学創立75周年記念展
あの総長の時代の名大（豊田講堂ホワイエ）

【スポーツ行事】

- ・名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室（陸上競技場）

【施設公開・見学ツアー】

- ・赤崎記念研究館展示室、ケミストリーギャラリー
- ・2008年ノーベル物理学賞・化学賞展示室
- ・超高压電子顕微鏡施設見学ツアー
- ・メディアスタジオ見学ツアー（情報メディアスタジオ）
- ・スーパーコンピュータ見学ツアー（情報基盤センター）

【販売コーナー（豊田講堂南側ピロティ）】

- ・本のリユース市、農産物、生協の名大グッズ等の販売

お問い合わせ先

総務部広報渉外課 TEL: 052-747-6558, 6559 E-mail: home-coming@adm.nagoya-u.ac.jp

詳細につきましては、ホームページ（「名大ホームカミングデイ」で検索）をご覧ください。

概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2014」を刊行

本学では、このたび概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2014」を刊行しました。

本誌は、本体編と資料編（各年1回発行）の2冊で構成されています。本体編は、「名古屋大学の強みを発信する」をコンセプトに制作しており、今年度は「名古屋大学の研

究者支援」をテーマとし、「界を、超える。」と題して、インタビュー形式でわかりやすく本学を紹介しています。資料編は、数字等のデータにより、本学の取り組みを客観的に紹介しています。

ご入り用の方は、広報渉外課で入手できます。

また、高校生向けパンフレット「GUIDE TO NAGOYA UNIVERSITY 2015」（年1回発行）も刊行しました。

ご入り用の方は、入試課で入手できます。



イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
<p>6月9日(月)～8月27日(水) 場 所：博物館野外観察園 セミナーハウス2階 時 間：10:00～16:00 休 館 日：土・日・祝日 入 場 料：無料</p> <p>[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767</p>	<p>野外観察園セミナーハウス サテライト展示 「ボタニカルアートと写真による観察園の植物」 テ ー マ：「IV-夏の植物」</p>	
<p>6月11日(水)～9月30日(火) 場 所：附属図書館医学部分館 2階入口ホール 時 間：9:00～20:00 (平日) (8/8～9/30の平日は9:00～17:00)、 13:00～17:00 (土曜日) 休 館 日：日・祝日、 8月9日～9月27日の土曜日、 8月25～29日 入 場 料：無料</p> <p>[問い合わせ先] 附属図書館医学部分館 052-744-2505</p>	<p>附属図書館医学部分館第7回ミニ展示会 「千年の医書－平安時代から江戸時代までの古医書の世界－」 内 容：「医心方」、「病草紙」、「傷寒論」、「捷徑医筈」、「蔵志図」、「解体新書」、「解体約図」など、古医書の歴史を語る上で極めて重要な史料（一部覆刻版）を展示</p>	

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月28日(土)～1月31日(土)

場 所：豊田講堂、減災館1階減災ホール、
環境総合館1階レクチャーホール、
他

時 間：9:15～17:00

定 員：500名

参 加 費：防災基礎研修1日+各コース
2日間で3,000円、他

平成26年度防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」

講 演 者：福和伸夫（減災連携研究センター教授）、他
内 容：防災基礎研修



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

7月24日(木)～11月29日(土)

場 所：博物館前庭、テラス、
特別展示会場

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

第19回博物館特別展「絹谷幸太 創知彫刻」

[関連特別講演会]

場 所：博物館3階講義室

時 間：14:00～15:30

講演題目：「創知彫刻にける夢」(9/3)

講 演 者：絹谷幸太氏（彫刻家）

講演題目：「博物館の楽しみ方」(9/10)

講 演 者：栗原祐司氏（国立文化財機構本部事務局長）

講演題目：「美術館における彫刻展示」(10/1)

講 演 者：南城 守氏（奈良県立美術館学芸課長）

講演題目：「創知が世界を救う」(10/29)

講 演 者：島田久仁彦氏（環境省参与）

対 象：一般

参 加 費：無料



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月1日(金)～31日(日)

場 所：中央図書館2階ビブリオサロン

時 間：8:00～21:30（平日）、
8:45～16:30（土、日曜日）

休 館 日：8月25日

対 象：一般

入 場 料：無料

附属図書館医学部分館／大学文書資料室企画展 「戦争と大学－1931～1945官立名古屋医科大学・ 名古屋帝国大学－」

内 容：今年2～6月に附属図書館医学部分館で展示された同館所蔵史料に、大学文書資料室が所蔵する史料やパネル等を増補し、戦時期の本学の研究・教育・医療・学生生活などについて展示する



[問い合わせ先]

大学文書資料室 052-789-2046

8月18日(月)

場 所：文系総合館7階
カンファレンスホール

時 間：14:00～16:00

定 員：30名

対 象：本学および近隣の大学関係者

参 加 費：無料

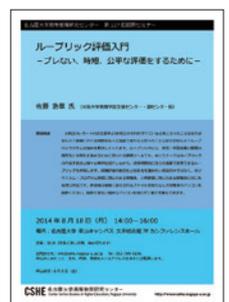
高等教育研究センター 第127回招へいセミナー

講演題目：「ルーブリック評価入門

ーブレない、時短、公平な評価をするためにー」

講 演 者：佐藤浩章氏（大阪大学准教授）

内 容：ルーブリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、研修時間内に自らの授業で活用できるルーブリックを作成する



[問い合わせ先]

高等教育研究センター

准教授 中井俊樹 052-789-5385

8月19日(火)～10月16日(木)

(期間内の火・木曜日)

場 所：経済学部1階第2講義室

時 間：18:00～19:30

定 員：200名

対 象：一般

参 加 費：9,460円（全15回）

平成26年度名古屋大学公開講座

テ ー マ：「おもしろいことは『境界』で起こる」



[問い合わせ先]

研究協力部社会連携課 052-789-5969

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月20日(水)～22日(金)

場 所：法学部棟第2講義室
時 間：10:00～17:30 (8/20)、
9:30～17:50 (8/21)、
10:00～16:15 (8/22)
対 象：学生、法科大学院生、一般
参 加 費：無料（懇親会費は除く）

連携企画

「アジアのための国際協力 in 法分野2014」
サマースクール アジアの法と社会2014
内 容：各分野専門家による講義、ディスカッション



[問い合わせ先]

法政国際教育協力研究センター
連携企画「アジアのための国際協力 in
法分野2014」事務局 052-789-2325

8月21日(木)、22日(金)

場 所：IB 電子情報館南棟4階
時 間：10:00～17:00
定 員：10名
対 象：中学生、高校生
(両日参加できる方)
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「3Dプリンターを使って臓器モデルを作ろう！」
内 容：医用画像処理講義、医用画像処理実習(8/21)、
3Dプリンター出力、スーパーコンピューター見学等、まとめ(8/22)

[問い合わせ先]

情報連携統括本部
教授 森 健策 052-789-5689

8月23日(土)

場 所：博物館2階実験室、展示室
時 間：10:00～15:30
参 加 費：50円(保険料)
定 員：21名
対 象：小学5年生以上、一般

ミクロの探検隊®

テ ー マ：「雑木林のムシ」
内 容：東山キャンパス構内で各自ムシを採集、実体顕微鏡や走査型電子
顕微鏡を使用し微細構造の観察をしながら分類や働きを学ぶ



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

8月26日(火)

場 所：情報基盤センター4階演習室
時 間：13:00～14:30
定 員：40名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成26年度第5回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「複合機のセキュリティについて」
講 演 者：松田 透氏 (リコージャパン株式会社)
内 容：情報技術の最新動向について

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

8月26日(火)

場 所：減災館1階減災ホール
時 間：10:00～16:00
対 象：参加校の高校生
参 加 費：無料

平成26年度高大連携高校生防災教育推進事業 高校生防災セミナー

講 演 者：護 雅史 (減災連携研究センター特任教授)、他
内 容：愛知県内の高校生を対象とした防災人材育成セミナー

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

9月1日(月)～10月24日(金)
 場 所：博物館野外観察園
 セミナーハウス2階
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：土・日・祝日
 入 場 料：無料

**博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示
 「水辺のトンボ」**

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

9月6日(土)
 場 所：上土ふれあいホール
 (長野県松本市)、松本市街
 時 間：13:00～17:00
 定 員：16名
 対 象：一般
 参 加 費：200円(保険料)

**平成26年度重要文化財馬場家住宅研究センター
 公開講座**

テ ー マ：「有形遺産とまちの魅力」
 講演題目：「まちの魅力を創る有形遺産」
 講 演 者：西澤泰彦(環境学研究所教授)
 内 容：松本市街地を講師と共に歩きながら、先人たちが残してくれた
 建物・街並み・水路などを確認し、まちの魅力を再発見する



[問い合わせ先]
 重要文化財馬場家住宅研究センター
 052-789-3762

9月9日(火)
 場 所：全学教育北棟4階多目的講義室
 (406号室)
 時 間：16:30～18:00
 参 加 費：無料

**国際言語文化研究科
 第23回応用言語学講座公開講演会**

講演題目：「会話分析からみた文法研究の新展開」
 講 演 者：林 誠氏(イリノイ大学准教授)

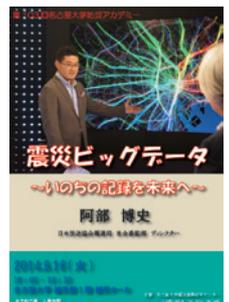


[問い合わせ先]
 国際言語文化研究科 教授 堀江 薫
 horie@lang.nagoya-u.ac.jp

9月16日(火)
 場 所：減災館1階減災ホール
 時 間：18:00～19:30
 定 員：100名
 対 象：一般
 参 加 費：無料

第103回防災アカデミー

講演題目：「震災ビッグデーターいのちの記録を未来へ」
 講 演 者：阿部博史氏(NHK報道局報道番組センターディレクター)



[問い合わせ先]
 減災連携研究センター 052-789-3468

**9月27日(土)、10月4日(土)、19日(日)、
 25日(土)**
 場 所：三井住友銀行 SMBC パーク栄
 (名古屋市中区)
 (9/27、10/4、10/25)、
 ES 総合館1階ESホール(10/19)
 時 間：14:00～16:00
 対 象：中学生以上、一般
 参 加 費：無料

市民向け講演会「先端科学技術と社会」

講演題目：「ESD と国際社会－ESD 世界会合の成功に向けて」(9/27)
 講 演 者：竹本和彦氏(国連大学サステナビリティ高等研究所長)
 講演題目：「丸ごと地球をとっておこうーめぐる、つづく、一緒に」(10/4)
 講 演 者：百瀬則子氏(ユニグループ・ホールディングス株式会社執行役員)
 講演題目：「iPS 細胞による網膜再生ー再生医療研究の最先端」(10/19)
 講 演 者：高橋政代氏(理化学研究所網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー)
 講演題目：「生命の時を刻むタンパク質ー生物はどのように時間を感じるか」(10/25)
 講 演 者：近藤孝男(理学研究科特任教授)

[問い合わせ先]
 学術研究・産学官連携推進本部
 あいちサイエンスフェスティバル事務局
 052-747-6527

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月4日(土)、11月8日(土)、
11月29日(土)、12月13日(土)、
1月24日(土)

場 所：理農館 3階335号室
時 間：10:00~15:00

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

ビジネス人材育成センター 平成26年度後期 B 人セミナー

テ ー マ：「ベンチャー精神、ベンチャー企業の現状」、
「博士人材が持っているべき素養・素質について考える
ー自己の強みを意識し、表現するスキルを習得しようー」(10/4)
「弁理士業務の実際と将来求められる人物像」、
「シンクタンク業界の業務の実際
ーアカデミアの研究、シンクタンクの『研究』ー」(11/8)
「Communications Styles – helping you to create good and
lasting impressions –」、
「国内/海外の再生医療業界について」(11/29)
「博士の就活スタート・リスタート
ー社会からの評価と自己評価・私らしい未来を獲得するためにー」、
「プレゼンテーションスキル研修
ー研究発表を、誰にでもわかりやすくプレゼンテーションー」(12/13)

10月18日(土)

場 所：東山キャンパス
時 間：10:00~
参 加 費：無料

[問い合わせ先]

総務部広報渉外課 052-747-6558

第10回ホームカミングデイ

「情報化社会における融和からの発展」

内 容：名古屋大学の集い、学術講演、名古屋フィルハーモニー
交響楽団コンサート、名古屋グランパススクールコーチに
よる親子ふれあいサッカー教室、あかりんご隊科学実験、
施設公開・見学ツアー、他



11月12日(水)

場 所：博物館野外観察園、
博物館 2階展示室
時 間：13:00~15:00
参 加 費：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園見学会

講 師：西田佐知子 (博物館准教授)、
野崎ますみ (同研究員)

内 容：季節の花をみながら自然を学び、電子顕微鏡でミクロの自然を
見る



名大トピックス No.255 平成26年 8月18日発行

編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

陸上競技場

(平成26年 7月15日)



148 学徒出陣 — 戦場へ向かう学生たち —

「学徒出陣」とは、一般には太平洋戦争期における1943（昭和18）年10月公布の在学徴集延期臨時特例によって、学生の兵役猶予が停止されたことに伴い、在学中の学生も徴兵検査を受けて、多くの若者が入隊したことを言います。

当初は、理科系の学生は入隊を延期する措置がとられたため、まだ理科系学部しかなかった名古屋帝国大学（名帝大）の学生は入隊を猶予されましたが、1945年になると一部の学生が対象になりました。しかし名帝大の学徒出陣については、人数やその名前をはじめ、その全体像がほとんど分かっていないのが現状で、名大の歴史を明らかにするうえで大きな課題となっています。

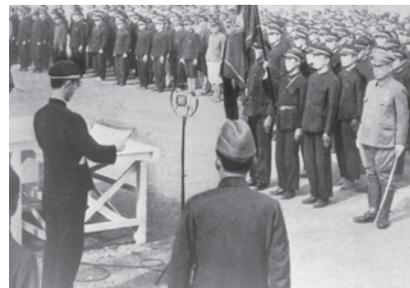
また、旧教養部の前身である第八高等学校（八高）と、経済学部の前身である名古屋高等商業学校でも、やはり学徒出陣がありました。

八高では、文科の学生が学徒出陣の対象となりました。1943年11月20日、八高で出陣学徒壮行会がおこなわれ（写

真2）、八高生たちは仮卒業証書を授与されて戦場等へ旅立っていきました。

大学文書資料室には、当時の八高理科6組のクラス日誌が保存されています。出陣学徒壮行会5日後の11月25日には、入隊は当然の義務であると強調しつつも、同時に「学生の本分たる勉学を中止して 客観的に之を見れば誠に気の毒である。」、あるいは「文科生は征く 文科生は征く 便所の中に“理科生ヨ 後ヲタノム”と託してあつた。彼の気持！私はそれを涙なくして読み得なかつたのだ。我々理科生はこの事に関して余りにも無関心であるのではなからうか。」と、文科生を見送る理科生の複雑な心情が綴られています。

現在、中央図書館において、企画展「戦争と大学-1931～1945 名古屋医科大学・名古屋帝国大学-」を開催中です（8月31日まで）。こちらもぜひご覧ください。



1	2	3	4
5	6		

- 1 名帝大工学部から学業半ばで応召した2人の学生（最前列向かって右から3番目と4番目）を囲む写真。のちに両名とも戦死した。
- 2 八高の出陣学徒壮行会（中日新聞社提供）。
- 3 八高理科6組のクラス日誌（大学文書資料室所蔵）。
- 4 写真3の43年11月25日の記述。
- 5 入隊者への八高の教員・学生による寄せ書き入り絹製日章旗（大学文書資料室所蔵）。
- 6 名古屋経済専門学校（44年に名高商から改称）3年生浅田禎男の入隊に際しての寄せ書き入り日章旗（45年、浅田禎男氏所蔵）。浅田氏は同年9月に復学、正式に卒業した。